令和６年度　第２回豊田市スポーツ推進審議会　会議録

【日　時】　令和７年２月13日（木）午後２時～

【場　所】　豊田市役所　教育委員会会議室（東庁舎６階）

【出席者】　（委　員）伊藤　央二　（中京大学スポーツ科学部　教授）《会長》
粕谷　浩二　（（公財）豊田市スポーツ協会　常務理事）《副会長》
安藤　貴通　（公募委員）
梅村　郁仁　（(株)名古屋グランパスエイト　広報・ホームタウン部　部長）
清水　弥生　（（一社）豊田市身障協会　副会長）
田口　賢一　（愛知県中小学校体育連盟豊田支所　支所長）
谷山　由香利（豊田市女性スポーツ団体協議会　会長）
手嶋　道雄　（豊田市スポーツ少年団　本部長）
寺尾　悟　（トヨタ自動車(株)トヨタスポーツ推進部スポーツ支援室パートナーシップ推進Ｇグループ長）
西脇　委千弘（（株）豊田スタジアム　取締役）
仁村　保郎　（豊田市スポーツ推進委員協議会　会長）
野尻　雅代　（公募委員）
簗瀬　歩　（豊田市地域スポーツクラブ会議　委員）

【欠席者】　岩月　幸雄　（豊田市健康づくり協議会　会長）

【事務局】　曽我　史人（生涯活躍部副部長）　中野　洋介（スポーツ振興課課長）
太田　栄一朗（スポーツ振興課主幹）　阿垣　一大（スポーツ振興課副課長）
髙島　圭太（ラリーまちづくり推進課副課長）藤村　修祐（スポーツ振興課担当長）
宇佐美　雅也（スポーツ振興課担当長）　太田　麻里花（スポーツ振興課主事）

【傍聴人】　なし

【次　第】
1　事務局挨拶
2　会長挨拶
3　議題
（１）（仮称）第５次豊田市生涯スポーツプランの方向性について
（２）スポーツ施設整備基本方針（案）について
（３）とよた地域クラブ活動展開プラン（案）について
（４）ラリージャパン開催報告について
4　その他

【会議録（議題部分のみ）】

■議題（１）（仮称）第５次豊田市生涯スポーツプランの方向性について

事務局：資料に基づき、（仮称）第５次豊田市生涯スポーツプランの方向性について説明

会　長：事務局の説明について、ご意見、ご質問があればお願いします。

委　員：資料の中で「こどものスポーツ体験機会を広げていきます」とあるが、そのために具体的にどのような取組を行っていくかが課題。親へのアプローチだけでなく、こどもが気軽に参加でき、主体的に参加したいと思える機会の提供が大切。特定のスポーツに特化するのではなく、遊び感覚で参加できるような取組が必要。幼少期に遊び感覚でスポーツを行うことでスポーツが好きになり、中学、高校に進んだ時に好きなスポーツを選ぶことで、生涯スポーツにつながる。

事務局：こどもがスポーツを好きになることが重要だと考えている。本市ではすべてのこどもに体験機会を提供できるように取組を進めている。

委　員：具体的な体験機会として、かつては豊田市子ども会育成連絡協議会がフットサルの活動を行っていたが、コロナの影響で活動が減少した。現在、フットサルの活動を再開している子ども会は少なく、その一因には親が外に出たがらないことがあげられる。親も巻き込んでスポーツの楽しさを伝えることが重要。

会　長：こどもの体験機会の具体的な取組内容については今後事務局で考える必要がある。

委　員：子育て世代の親として、「手軽さ」「身近さ」「お金がかからない」という要素を非常に重視している。こどもにスポーツをさせたいと考える親は多いものの、遠くのスポーツ施設にこどもを車で送迎するのは現実的には難しい。そのため、小学校単位でスポーツができる環境を整備していただけると非常に助かる。また、こどもはスポーツを嫌いだから参加しないのではなく、参加しづらい環境がこどものスポーツ実施率低下の要因の一つと考えられる。こどもが手軽に参加できる環境を整備することが重要。

事務局：小学校の部活動がなくなった現状も踏まえ、今後はこどもが手軽にスポーツに親しめる機会を増やしていきたい。

委　員：資料内の障がい者のスポーツ実施率「70%程度/年」の意味を教えてほしい。

事務局：1 年間で 1 回以上スポーツをした障がい者の割合で、国の目標は「70%程度/年」となっている。また、併せて国は週に 1 回以上スポーツをした障がい者の割合の目標を「40%程度/週」と設定しているが、本市ではその割合が 17.8%とかなり低い状況。

委　員：「楽しむ」スポーツに関して、パロマ瑞穂スポーツパークや三河安城交流拠点アリーナの開業により、今後本市で行われる大規模スポーツイベントは減少する見込み。本市の豊富なスポーツ施設を生かした街の活性化が求められる中、豊田スタジアムとしても危機感を抱いている。今後は「多様化」や「多角化」という視点で施設の利活用を考えていく必要がある。次期プランでは、「こども起点」を重視しているが、特に幼少期の遊びは生涯を通したスポーツ実施につながると考えられる。こどもの学びや体験に対するアプローチについてはスポーツ分野だけでなく市全体で考える必要がある。また、第 3 次豊田市生涯スポーツプランの計画期間中にラグビーワールドカップが開催されたものの、当時のプランに記載されなかったため、次期プラ

ンには、ラリーやアジア・アジアパラ競技大会などの大規模スポーツイベントについても盛り込んだ方がよい。

委　員：資料中の基本方針の内容に矛盾を感じる。スポーツの裾野を広げていくのであれば地域のスポーツ施設を充実させることが重要だが、「豊富なスポーツ資源を生かし」の中には豊田スタジアムなどの大規模スポーツ施設の記載はあるものの、地域の施設の記載はない。また、国のスポーツ基本計画に掲げられている「国際競技力の向上」が本市の基本方針には記載されていない。スカイホール豊田や豊田スタジアムといったプロスポーツチームが使用する施設があるにもかかわらず、地元の競技者の発掘や地元チームの競技力向上のための施策について明記されていない。これは基本方針の「豊富なスポーツ資源を生かし、まちの魅力創造・活性化につなげる」という考え方と矛盾しているのではないか。地元の人々が活躍することで、その活躍を「みる」機会が増え、「する」スポーツにも繋がる。「する」「みる」「支える」スポーツはいずれも同等の価値を持っていることから、「する」スポーツに偏るのではなく、バランスよく施策を推進することが必要ではないか。

会　長：競技力向上についてプロスポーツチームの視点からはどうか。

委　員：地元の選手が活躍することで応援機運醸成につながるため、チームとしても地元の選手発掘に力を入れていきたい。また、こどものスポーツ機会の低下に危機感を抱いており、行政と連携してスクール活動などを行い、こどもたちが気軽にスポーツを行える機会提供に協力したい。

委　員：大きな大会を誘致するためには財源が必要であり、行政として収入を得る仕組みを考える必要がある。また、現在トヨタスポーツセンターの改修を行っており、アスリートの育成はもちろん地域の皆さんにも利用してもらいたいと考えている。企業だけでなく、市と連携し、アスリートを支えていく必要がある。そういったアスリートの活躍を見ることでこどもたちのスポーツへの参加意欲向上に繋がる。また、eスポーツを含め、体を動かさないスポーツについても今後議論が必要。

会　長：わがまちアスリートやプロスポーツチームが多く存在していることは本市の特徴。このことから、競技スポーツをどのように位置付けるかも本市のスポーツ振興の重要な視点になる。

委　員：小学校や中学校の部活動がなくなることで、こどもたちのスポーツ離れが懸念される。そのため、部活動の地域移行に注力すべき。現在、小学校の水泳授業はスイミングスクールに委託しているが、専門の指導員による指導は教員が教えるよりもこどもの成長に効果的であると感じる。また、利便性の高いスポーツ環境について、夏季に「卓球」や「ハンドボール」など広い会場が必要な大会を行うことができる施設は市内にスカイホール豊田のみ。学校に空調が設置されたため、ほとんどのスポーツは学校の体育館で行うことができるが、市のスポーツ施設にも空調が設置されることが望ましい。また、今年度、本校の中学一年生がスタジアムを見学し、選手のロッカーや控室、芝に入らせていただいたのはこどもたちにとって素晴らしい経験であった。このような体験が他の学校でも実施されることを期待している。

事務局：スポーツ施設の空調設置に向け、来年度に調査を実施する予定。

委　員：障がい者が普段活動している豊田市障がい者福祉会館は非常に古く、空調が設置さ

れていない。夏場は非常に暑く、スポーツをしたくてもできない状況。施設の整備が不十分であることが市の障がい者のスポーツ実施率が低い要因なのではないか。特に障がい者の方にとって、暑さや寒さは命に関わる重大な問題であり、その影響でスポーツができない状況。

委　員：障がい者の方にとって、スポーツを行う際の温度は死活問題。空調が設置されている体育館を増やすことが、障がい者のスポーツ実施率向上につながるのではないか。

事務局：来年、サン・アビリティーズ豊田についても空調設置に向けた調査を行う予定。来年度中の設置は難しいが、設置に向けて今後もご意見をお伺いしたい。

会　長：基本方針が変更されたにもかかわらず、「めざす姿」が変わっていない。新しい基本方針である「こども起点」や、「スポーツをしやすい環境づくり」などを反映させたものにする必要がある。また、先ほど意見が出た「競技力の向上」についても「する」スポーツの部分に含めることができたら良い。

委　員：「こども起点」は豊田市の総合計画からの引用だが、「起点」という言葉が耳慣れないため、「こどもファースト」や「こども中心」などを含めて、もう少しわかりやすい言葉で表現できると良い。

■議題（２）スポーツ施設整備基本方針（案）について

事務局：資料に基づき、スポーツ施設整備基本方針（案）について説明

会　長：事務局の説明について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

委　員：利用率の低い施設について集約や縮小を検討すると記載されているが、利用率が低いことを理由に縮小を行うべきではないと考える。例えば、下山のプールでは、炎天下に屋外で水泳を実施できる設備が十分に整っておらず、私自身も下山に住んでいるが、民間のプールを使用している。つまり、ニーズはあるものの施設の設備が整っていないため利用率が低下している可能性がある。そのため単に利用率を理由に縮小を行うべきではない。整理の仕方が少し乱暴。

委　員：自分も同感で、単に利用率を理由に施設の集約や縮小を行うのは整理の仕方として少し乱暴な気がする。今ある施設で利用者を増やす取組を行ったうえで、それでも利用者が増えない場合には廃止を検討するべきだと考える。

委　員：第４次豊田市生涯スポーツプランには施設の整備についての記載はなく、次期プランには施設の整備計画も載せていきたいということだが、施設の一覧も載せる予定か。

事務局：記載する方向で考えていきたい。

委　員：スポーツ施設は量的に充足していると資料に記載されているが、施設ごとの利用状況一覧があるとわかりやすい。本市の TOSS システムに載っている施設はシステムを見れば利用状況が分かるが、それ以外の施設の利用状況が把握できない。次期プランやホームページに利用状況一覧を載せることで、よりわかりやすくなる。また、スカイホール豊田も、空調が使える施設として、利用者が空き状況を検索しやすくすることで効率的に利用できるのではないか。施設の数があるとは言っても、現在一部のスポーツ団体からはスポーツ施設の拡充を望む要望が寄せられており、そのような団体にも市内のスポーツ施設が充足していることを理解してもらえるプラン作成が必要。老朽化による修繕や空調の整備など、スポーツ環境の整備に向けた取組が伝わる

スポーツ施設整備基本方針を作る必要がある。

委　員：利用率だけでなく、世代と地域ごとのニーズを調査するべき。大人は車を使って遠方の施設を利用できるため、より多くの人が利用する施設に税金を使うべき。利用者のニーズをしっかりと調査したうえでの施設閉鎖はやむを得ないと思う。また、一利用者として、スカイホール豊田の利用料金が高いと感じる。利用者はTOSSで一斉に予約を取るが、料金の安い施設は人気でなかなか予約できない。例えばスカイホール豊田なども予約が入っていない時間帯は料金を下げるなどの対応を行えば利用率が上がるのではないか。収入が全くないよりは、料金を安くしてでも利用してもらう方が市としても良いのではないか。

委　員：条例上特定の利用時間だけ料金を安くするのは難しい。

委　員：指定管理者が利用率向上に向け、どのように取り組んでいるのかも市としてしっかりと評価していくべき。

事務局：これまでの議論をまとめると、議題１については次期プランの方向性については概ね資料の内容で問題ないか。また、議題２については施設の統廃合の考え方や表現を再度整理する必要があるということで良いか。

委　員：議題１については「めざす姿」と「基本方針」の表現についてすり合わせる必要がある。

事務局：「競技力向上」や「こども起点」を「めざす姿」や「基本方針」の中でどのように表現するかは今後考えていきたい。

■議題（３）とよた地域クラブ活動展開プラン（案）について

事務局：資料に基づき、とよた地域クラブ活動展開プラン（案）について説明

会　長：事務局の説明について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

委　員：学校の空調設備は地域クラブ活動でも使用できるのか。

事務局：使用できる。

委　員：昨年は夏の暑さのため、屋内外での練習や大会が何度か中止になった。その影響で、ルールの理解が曖昧なまま大会に出場するこどももおり、例年に比べてゲームの質が低下した。さらに、地域クラブ活動の「活動日時」によると冬季の練習も制限されており、部活動に比べて練習量がかなり減ってしまう印象。そのため、地域クラブ活動ではこどもたちがスポーツを楽しめるレベルに達するための練習時間が確保できるかが心配。特に、屋外競技については夏場には屋内施設を利用できるなどの工夫があるとありがたい。施設を有効に活用できる体制が整えば、練習時間を増やすことができ、ゲーム性が向上し、こどもたちがスポーツを楽しむことにつながる。

事務局：現状屋内については空調設置により夏季の練習時間の確保が可能となるが、屋外については今後の検討課題。

委　員：豊富なスポーツ資源を有効に活用すべき。施設だけでなく、中京大学やトヨタ自動車のアスリートなど、本市には豊富な人材がそろっている。大学と連携すれば、インターンで指導者も見つかる可能性が高い。また、指導者研修についても、中京大学の知見を生かすなど、本市の強みを積極的に活用していくべき。

事務局：以前ご意見をいただいたこともあり、中京大学には指導者に研修プログラムの作成にご協力いただいている。また、トヨタ自動車や名古屋グランパスにも今後具体的

な連携方法について相談させてもらう。

委　員：指導者について、スポーツの指導ができる学生は多いが、施設の予約などのマネジメントが苦手な学生が多い。指導のみであれば、多くの学生が参加できると思う。

委　員：現在、一部の学校では部活動後に生徒がクラブチームの練習に参加していると聞いている。クラブチームが存在する地域では練習時間が多く確保できるなど、地域によって練習時間の差が生じてしまうのではないか。

事務局：部活動を補完するクラブチームの活動は存在している。クラブチームの活動は学区単位での制限はなく、誰でも参加できる活動となっているため、地域格差につながるものとは考えていない。

委　員：クラブチームのコーチが地域指導者になっている場合もあるのか。

事務局：ある。

委　員：企業の中には、副業として地域指導者を積極的に認めているところもある。本市にも多くの企業が存在するため、協力を依頼してみては。

事務局：すでにいくつかの企業に相談しているが、今後本格的に依頼していく予定。具体的には金銭的支援、物的支援、人的支援をメニュー化し、協力を依頼していく予定。

委　員：私の勤め先は名古屋にあるが、会社の硬式・軟式野球部が名古屋市以外の市と地域指導者にかかわる協定を結んでいる。本市はたくさんの企業があるため、地域に根差した人材を集めやすいのではないか。

委　員：現在、地域指導者として多くの大学生に協力していただいている。地域クラブ活動になることで、こどものニーズを踏まえ、種目の新設などを柔軟に行えることは非常に良いこと。一方で、現在、大会運営に多くの教員が関与しており、地域移行後の関わり方を検討していく必要がある。全国的に見ても、これだけの取組を行っていくのは素晴らしいことだが、実際に実施するのは大変なこと。それでも、豊田市のこどもたちが困らないように、学校としても積極的に協力していきたい。

委　員：小学生の地域クラブ活動はどのくらいの年齢を想定しているか。また、複数種目の参加は可能か。

事務局：高学年を想定しているが今後検討が必要。また、様々な種目を体験してもらうことを想定しているため、複数種目の参加は可能。

委　員：様々なスポーツを経験できることはこどもにとって非常に良いこと。

委　員：指導者の登録に関しては、講義や映像だけでなく、対面での確認も必要。また、日本スポーツ協会が行っている研修プログラムを活用する方法も考えられる。自社としても協力できる部分は協力していきたい。

事務局：指導者登録については対面による面接を行っていく予定。

委　員：部活動の地域移行に伴い、教員の手から大会の運営が離れると、大会の数が減ってしまうことが考えられる。大会はこどもたちのモチベーションに深くかかわっており、大会がなくならないよう、市でしっかり対応してほしい。

■議題（４）ラリージャパン開催報告について

事務局：資料に基づき、ラリージャパン 2024 開催報告について説明

委　員：予想以上に大きなイベント。準備が大変な中、開催していただき感謝します。

以上